

もりのほら 森の原遺跡 (第2次)

遺跡番号 208-048
調査回数 第2次
所在地 山形県村山市土生田字鼠田
北緯・東経 38度33分34秒・140度23分53秒
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
起因事業 東北中央自動車道(東根～尾花沢)
調査面積 3,650 m²
受託期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日
現地調査 平成23年5月17日～9月30日
調査担当者 高橋敏(調査主任)・向田明夫
調査協力 村山市教育委員会・村山教育事務所
遺跡種別 集落跡
時代 縄文時代・平安時代
遺構 竪穴住居跡、竪穴状遺構、柱穴、溝跡、土坑
遺物 縄文土器・石器・土師器・須恵器・陶磁器(文化財認定箱数:8箱)



図1 遺跡位置図(1:25,000)

森の原遺跡は村山市北部の最上川右岸、JR袖崎駅の北方約1.4kmで、大石田ゴルフクラブの南側に広がる河間低地の自然堤防上に立地し、名産のスイカやさくらんぼなどの畑地となっている。

今回の調査は、22年度調査区であった東西取り付け道路間の本線部分について実施した。調査区は南から北に向かって標高が下がり、北半は遺構・遺物の分布密度は希薄であった。標高のやや高い南半部で遺物集中地点が数ヶ所と土色変化等が確認された。遺物集中地点を掘り下げたところ、竪穴状の掘り込みが4基確認されたが、

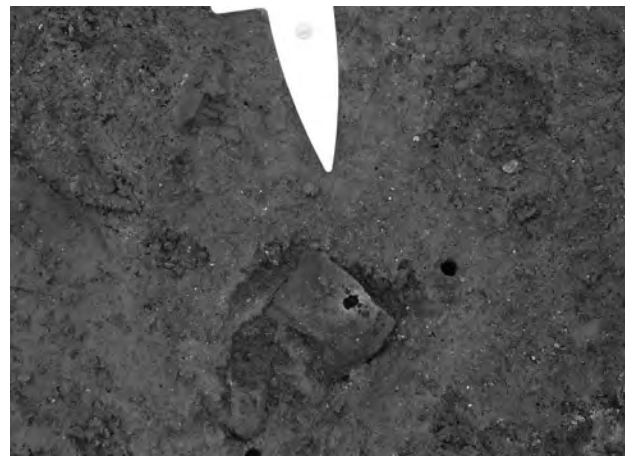


図2 SX 009石製品(垂飾品)出土状況

住居跡としたのは現時点で1基のみである。また、幅1m程の砂の帯が幾筋も走るのが検出されている。断面観察では、あたかも砂が湧き上がっているように見られることから、最上川対岸の大石田町横山地区で確認される幾たびかの大規模な活断層活動(地震)に由来する、噴砂あるいは液状化現象の可能性も考えられる。

遺物は風化の激しい縄文土器片が主で、他に石鏃・石匙等の石製品がある。SX 009出土の垂飾品と考えられる石製品は、付近から接合する石材が出土していることから、SX 009内で製作されたと思われる。